

第2回専門部会意見対応表

資料1-2

No.	委員	意見	対応
専門部会部会（ユニバーサル）			
1	定池委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーの定義を書いていただければと思う（基準が分からないと、バリアフリーの捉え方がそれぞれ違って、方向性がばらつく可能性がある）</li> <li>・心のバリアフリーはとてもすばらしいが、イメージが一番様々になりやすいところだと思うので、その点にご配慮をいただけると良い</li> <li>・ユニバーサルということ考えたときに、バリアフリーの話はとても充実している一方で、ユニバーサルについてはあまり盛り込まれていないのかなと感じたので、今後はその観点も付け加えていただければと思う</li> </ul>	<p>○「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」について、双方ともに障壁（バリア）がなく暮らしやすい社会を目指すという点では同じですが、「バリアフリー」は障壁（バリア）を後から取り除くという考え方であり、「ユニバーサルデザイン」は、はじめからバリアをつくらないという考え方であると改めて整理しました。</p> <p>○ご意見を踏まえ、今後の取組の方向性を「障壁（バリア）を取り除くとともに、全ての人の利便性向上に向けた取組の推進」とし、ユニバーサル社会の実現に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「移動経路・建築物 ～誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設等の整備～</li> <li>・制度・情報 ～当事者への支援と情報発信の充実～</li> <li>・意識 ～心のバリアフリーの浸透と誰もが活躍できる環境の整備～</li> </ul> <p>の3つ柱で推進していくことと再整理を行いました。</p> <p>○また、心のバリアフリーの定義について、「様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと」と記載いたします。</p>
2	梶井部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーについて書くとユニバーサルが薄まるというなかなか難しいところがある</li> <li>・ユニバーサルの領域として、バリアフリーばかりに注視しないで、全体的にももう少しうまくバランスが取れるよう、次回までにご検討をいただければと思う</li> </ul>	
3	柴田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のバリアフリーというのはあまり聞いたことがなく、何を境界だとしてそれをフリーにするというイメージなのか</li> <li>・志すところは分かるが、その反面、SNSの普及に伴って、いろんなものが極端に右傾化したり左傾化したりする現象が起こっているなど思っている</li> <li>・さらには、境界を外すことによって、一種のアレルギー反応的なことが一時的に起こっているような感じもする</li> <li>・難しいとは思いますが、何かフリーになればよいということではなく、そこに一定のルールや寛容さというか、何を境界とするかという具体的なステップみたいなことが少し描かれると分かりやすいかなと思う</li> </ul>	
4	平本部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルを実現するための一つのアプローチとして、ここでは様々なバリアフリーを位置づけ、確かにそういう立てつけになっていると思うが、片仮名言葉は、どうしても分かりづらい面があるので、説明を少し丁寧にしていただくことが必要</li> </ul>	

No.	委員	意見	対応
5	高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動や建築物のバリアフリー施策を行った先の成果について、どのように測ることを計画しているか、意識しながら考えておいたほうがよい</li> <li>・例えば、札幌に来て、移動したり建築物を利用したりしたとき、ほかの都市に比べてバリアフリーが非常に整っていて、すごく移動しやすかったといった経験や感覚などが最終的な成果として市民の皆様や観光客の皆さんにも見ていただけると良い</li> </ul>	<p>○成果指標についても検討を進めているところであり、東京都などの他都市の事例や、国のバリアフリー法で掲げる指標の事例などを踏まえ、答申までに整理して行きたいと考えています。</p>
6	岡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条例や法律を守って作れば良いという考え方は優しくないと思う</li> <li>・実際に困っている人の声を聞きながら検討しますということも資料には特に書いていなくて、書いているものを守りますとしか読めない気がする</li> <li>・当事者の方に参加していただいたり、実際の体感を教えていただいたりして、良いものにしていただきたい</li> </ul>	<p>○当事者の方のご意見を反映させていくことは非常に重要であると考えており、札幌市では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築物：2,000平方メートル以上の新・増改築（主に不特定多数の人が利用するもの）</li> <li>・道路：基本構想に基づくバリアフリー化事業のうち、意見を活用する場合</li> <li>・公園：地区公園及び総合公園を新たに整備する場合（全面改修を含む）</li> </ul> <p>の事業を実施する場合、障がい者・高齢者からご意見を求める「バリアフリーチェック」の仕組みを設けています。</p> <p>○また、札幌市は、今年度から、ANAグループと連携し、ユニバーサルデザインに基づく総合的な移動サービス「UniversalMaas」の共同プロジェクトを推進しており、その一環として、令和4年9月4日（日）に、車いす当事者の方と街歩きを行うイベントを開催予定です。</p> <p>○様々な場面を通じて、当事者の方からのご意見をいただき、まちづくりに反映させて行きたいと考えています。</p>
7	定池委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や市民に向けた取組に、災害時のことを特出しで書いていただき、避難行動要支援者に配慮した避難支援の充実を検討とあるが、バリアフリーの観点で特出ししていただいたと認識</li> <li>・ユニバーサルの視点というのは、避難をはじめ、避難所生活、その後の生活再建など、全てのフェーズに及ぶものなので、具体的に言えなくて申し訳ないが、ユニバーサルな視点を防災から復興のところまでに反映させられるようにしていただければと思う</li> </ul>	<p>○第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）では、ビジョン編に定める「目指すべき都市像」を実現するため、「まちづくりの重要概念」の1つである「ユニバーサル（共生）」を踏まえて、分野横断的に取り組む「施策」と「まちづくりの基本目標」ごとに取り組む「施策」を定めることとしています。</p> <p>○ご指摘の、ユニバーサルの視点は、避難をはじめ、避難所生活、その後の生活再建など、全てのフェーズに及ぶものと認識しており、「まちづくりの基本目標」の「安全・安心分野」の「施策」にもユニバーサルの視点を取り入れて検討を進めています。</p>

No.	委員	意見	対応
8	松田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の子どもや若者がマイノリティや弱者に対して排除しているという感覚はあまりないが、知らないカテゴリーなど、ストレンジャーに対する恐怖感みたいなものがあると感じている</li> <li>・顔の見える関係をつくるという意味では、交流機会を設けるなどにより、バリアしているものをまずは取り除く機会を促進していけば、ユニバーサルなまちづくりにつながるのかなと思う</li> </ul>	<p>○ご意見を踏まえ、主な施策として、「障がいのある子どもやない子ども、その家族との交流しながら共生社会を学ぶ機会の提供」や「外国人との交流などを通じた多文化共生に対する意識啓発」について記載いたします。</p>
9	吉岡委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のバリアフリーを特出ししたことは素晴らしい</li> <li>・当事者への取組について、制度や相談体制等の構築については期待したいと思っている</li> <li>・相談窓口だけではなく、当事者が当事者同士で考え合ったり、交流したり、あるいは、市の取組に対して積極的に声を上げていく、応援していくような環境整備の視点がもう少しあったほうがよいと思う</li> </ul>	
10	川島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人との触れ合いも同じかと思うが、障がい者の方の関係で言いますと、子どもたちを集めて障がいのある方と一緒にパラスポーツを体験してもらうなど、一緒に関わることで理解を促進していくような交流事業をもっと盛んにやっていくべきと考える</li> </ul>	
11	高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者への取組について、相談から人と人をつなぐような少し踏み込んだ行動がここにあるとよいと感じている</li> </ul>	
12	尚和委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に心のバリアフリーを広めるための取組の推進の中に、高齢者に対する心のバリアフリーを広める取組の推進を入れておいたほうがよいのではないか</li> </ul>	<p>○高齢者に対する心のバリアフリーを広める取組の推進は重要であると考えており、ご意見を踏まえ、主な施策として、「障がいのある人や高齢者の特性や困りごと、手助けや配慮の方法等の意識啓発」を記載します。</p>

No.	委員	意見	対応
13	梶井部会長	・札幌市がこれから多様な人材を受け入れていくという将来的な展望に立ったときに、ユニバーサル的な教育施策が必要という見地に立ち、もう少し踏み込んだ施策が必要なのではないかなと思う	
14	山中委員	・国際化、国籍のところについて、大通高校では、渡日・帰国生徒の入試をやっており、北海道では唯一であり、素晴らしい、全国的に見ても非常に珍しいもの ・例えば、市立高校や小中学校など、学校教育の中に国籍への対応や日本語が母国語ではない人の視点も入れたらよいと思う ・例えば、北九条小学校では、子どもたちはうまく話していたが、親御さんに学校の制度を説明するというのは、個々の教員や学校の対応だけでは難しい	○教育面での心のバリアフリーの推進は重要であると考えており、「意識～心のバリアフリーの浸透と誰もが活躍できる環境の整備～」を柱として再整理し、「子どもの多様性を尊重した学びの提供」を位置付けました。 ○また、施策について、少し踏み込んだ記載が必要とのご意見を受け、主な施策として、「文部科学省の「心のバリアフリーノート」を活用した共生社会の実現に必要なことを考える授業の実施」、「子どもたちの国際感覚や異文化への理解を促進する取組の充実」、「可能な限り障がいのある子とない子が共に学ぶことができる学習の推進や環境整備」、「教員への人権課題（子どもの権利やジェンダー平等、アイヌ民族、多文化共生等）に関する理解促進」と記載を修正します。
15	山中委員	・札幌らしい特色のある学校教育として、雪と環境と読書ということになっている ・札幌らしい教育の一つに心のバリアフリーを掲げたら進むのではないかなと思う	○なお、心のバリアフリーノートには、障がいのある人だけでなく、外国人や高齢者など、生活に困ることは人によって異なることを考えさせる教材となっております。
16	佐藤（大）委員	・心のバリアフリーについて、学校教育における取組とあるが、学校の先生が教育の中でバリアフリーをしましょうねと言うことを教えても、本当にバリアフリーができるのか、僕も大学で教えていますが、学生にそういうことが大事だよねと言ったところで、それがバリアフリーにつながるとは思えないという部分もある ・そのような意味で、心のバリアフリーのところは、もう少し具体的に突っ込んでもいいのかなと思う ・バリアフリーの対象となっている多様な人たちとの関わり合い方をどうやって創出していくかというのが大事かなと思う	※心のバリアフリーノート（文部科学省） <a href="https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/11/08/1422516_001_1.pdf">https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/11/08/1422516_001_1.pdf</a>

No.	委員	意見	対応
17	中田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のバリアフリーについて、今年の雪は、降り方が非常に極端で、歩道の除雪がされていないので、車椅子の方が車道で自分で押されていた</li> <li>・誰かが助けてあげる、支援をする機運を高めるためには、学校や企業での教育が非常に大事だと思う</li> </ul>	
18	牧野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のバリアフリーについて、地下鉄ではお手伝いの必要な人は職員に声をかけてくださいという呼び出しボタンがついているが、ハードルが高い</li> <li>・そういうときに身近にいる人が簡単にお手伝いをしてくれたり、声をかけてくれたり、そういう社会になれば良いと感じる、これがまさに心のバリアフリーだなと思う</li> <li>・企業等における取組について、令和3年度に企業向けの心のバリアフリー研修をさせていただいたが、重要なのは経営者であると思う</li> <li>・経営者の方の意識がないと、幾ら社員がそういう心を持っていても企業はあまり変わらないので、経営者の方たちの意識を啓発するような取組をしていただけるとよい</li> </ul>	<p>○市民や企業への心のバリアフリーの推進は重要であると考えており、「意識～心のバリアフリーの浸透と誰もが活躍できる環境の整備～」を柱として再整理し、「市民や企業等の意識向上」を位置付けました。</p> <p>○経営者へのアプローチの重要性など、いただいたご意見について、事業の実施部局と共有しており、より効果的な事業としていく必要があることから、引き続きのご助言をいただけると幸いです。</p>
19	中田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築物のバリアフリーに関して、今後、2030年を見越した場合に、多くの方が利用するのはコンビニなどの小規模な民間建築物だと思うので、小規模な民間建築物のバリアフリー化をもう少し促進する必要があると認識</li> <li>・特に都心部での取組が必要ではないかなと思う</li> </ul>	<p>○近年、新築・増改築されている500㎡以下の小規模な民間建築物や既存の民間建築物のバリアフリー化に課題があると認識しており、主な施策として、「中小規模の民間公共的施設のバリアフリー改修の促進支援の充実や小規模公共的施設の整備基準を検討」について記載します。</p>
20	佐藤（理）委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築物のバリアフリーについて、札幌市の場合、都心部の小さな建物や住宅街の日常生活に必要なスーパーなどの建物ではまだまだバリアフリー化が進んでいないので、バリアフリー化されるような取組を考えていただきたいと思う</li> </ul>	<p>○なお、整備基準については、「札幌市福祉のまちづくり推進会議」などにより、当事者の方々や事業者の皆様から幅広い意見をいただきながら検討を進めていきます。</p>
21	牧野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築士会に入っていて、札幌市の色々なバリアフリー改修のお手伝いもさせていただいているが、玄関がバリアフリーではないのに、建物内のトイレをバリアフリー改修しようとしている業者もあり、まだよく理解されていないと思うところもある</li> </ul>	<p>○また、バリアフリー改修を行う業者の理解促進の重要性など、いただいたご意見について、事業の実施部局と共有しており、より効果的な事業としていく必要があることから、引き続きのご助言をいただけると幸いです。</p>

No.	委員	意見	対応
22	牧野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルは特に関心を持っている分野だが、その中でも移動の円滑化について、雪が降る間は、円滑どころか、ほとんどどこにも行けない状態であり、当事者として一番欲しいのは情報</li> <li>・ハードをバリアフリーにするのはお金も時間もかかるが、エレベーターに乗ろうと思っても、情報としてどのぐらいの距離にそういうものがあるのかが分かっているれば、大変な思いをしなくても、サポートをしてもらうなどにより解決することもできると思う</li> <li>・バリアフリー情報の充実の中のウェブや冊子だけでなくという点について、札幌市ではバリアフリータウンマップを作っているが、ピックアップされた情報であり、冊子に全部の情報を盛り込むと大変であるので、アプリなどを使って簡単に使えるものがあればよいと思う</li> <li>・大阪メトロのアプリも、最近、実証実験をされていて有効だなと感じているので、札幌にもこれがあると助かる方が沢山いるのではないと思う</li> </ul>	<p>○バリアフリー情報などの情報発信を充実させていくことは重要であると考えており、「制度・情報～当事者への支援と情報発信の充実～」を柱として再整理し、「サービスや制度の充実、コミュニケーションへの支援」、「バリアフリー情報の発信」を位置付けました。</p> <p>○また、ご意見を踏まえ、バリアフリー情報の発信の主な施策として、「都心部地下ネットワークや乗換経路案内への案内サインの充実化・統一化やエレベーター、バリアフリースイッチへの視認性の高いサインの整備」、「地下出入口情報やトイレの位置情報の提供」、「バリアフリー経路情報（過去に車いすユーザーが走行したルートなど）の発信検討」を記載します。</p> <p>○また、札幌市は、今年度から、ANAグループと連携し、ユニバーサルデザインに基づく総合的な移動サービス「Universal MaaS」の共同プロジェクトを推進しており、その一環として、令和4年9月4日（日）に、車いす当事者の方と街歩きを行うイベントを開催予定です。</p> <p>○さらに、「移動経路・建築物～誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設等の整備～」の中に、主な施策として、「区役所の待合スペース等へのユニバーサルデザインの導入や表示の多言語化」を記載するなど、障壁（バリア）を取り除くとともに、全ての人の利便性向上に向けた取組を推進していきたいと考えています。</p>
23	浅香委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリー情報の充実について、片足大腿切断という私レベルの障がいを持つ者でも、地下鉄大通駅からこのビルに行くとき、どこを通ると上下移動が楽かという情報は有益</li> <li>・車椅子の方や視覚障がいの方は行き慣れた道筋であれば大丈夫という声を聞く</li> <li>・建物自体のバリアフリー情報や地下鉄のバリアフリー情報などの個別の情報に加えて、行き慣れないところに行く場合はもう少し連結した情報があったほうがよいと感じる</li> </ul>	
24	山本（強）委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報のユニバーサル化が重要</li> <li>・外国人の問題もあるだろうし、色覚や難聴などの様々は障がいもあるので、情報を受け取れない方のこともどこかにコメントとしてあったほうがよいという印象を持った</li> </ul>	
25	高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想としては、相談に行く必要がない、あるいは、行かなくても解決しているということが増えるとういと思うし、しっかりと届く情報提供の強化があるとよい</li> </ul>	

No.	委員	意見	対応
26	村木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季の乗継機能の強化のところにいきなり下水熱が出てくることは、すごく唐突に感じる</li> <li>・冬季の乗継機能の強化というよりも、移動経路のバリアフリーという観点で、この絵では駅の出入り口のところだけで活用するみたいになっているので、もう少し幅を広げたらいいのではないかなと思う</li> </ul>	<p>○ご意見を踏まえ、「移動経路・建築物～誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設等の整備～」を柱として再整理し、「四季を通じて円滑に移動できる交通環境」を位置付けました。</p> <p>○その中で、主な施策として、「地下鉄駅への2基目のエレベーター整備を推進」するとともに「地下鉄エレベーターとタクシー・バスの乗継経路に下水熱ヒーティングの導入を検討し、冬季の乗継機能を強化」し、さらに「ノンステップバスやUＤタクシーの導入促進に向けた支援の充実」を図っていくことを記載し、可能な限り冬期間でも円滑な移動ができるよう、効果的な事業を構築して行きたいと考えています。</p> <p>○冬期の移動環境の確保は、札幌市にとって、大きな課題であると認識しており、ハード面だけでなく、情報発信などのソフト面も組み合わせて考えていく必要があると考えています。</p> <p>○また、休憩スペースの配置なども含め、事業の構築にあたっては、様々な方の声を、より一層お聞きして検討していく必要があると考えております。</p> <p>○さらに、昨冬の大雪は、市民生活に多大な影響を及ぼしました。大雪時における対応や持続可能な雪対策に向けた検討についても、分野横断的に取組む施策の「スマート」の中で、検討を進めております。</p>
27	大西委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動のバリアフリーについて、降雪期間というのは、屋内は特に問題がない一方で、屋外に関しては季節の影響がかなり大きいと思う</li> <li>・今年の冬の雪の状況を考えると、移動に相当不便した人たちが多かったのではないか</li> <li>・冬季の乗り継ぎ機能の強化というのが特出しされているが、冬期間の地上での移動はどうするのか、ゆきとの暮らしとも関係するのかもしれないが、考えたほうが良いと思う</li> <li>・移動する間の休憩ができるようなスペースなど、感染状況も含めて、密にならないような休憩スペースの配置というのも移動と一緒に考えていくことが大事</li> </ul>	
28	福士委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通等の足の確保については、冬季にかかわらず、今後の課題が多く見えている</li> <li>・利用者が快適に利用できるような環境づくりは必須の状況</li> <li>・ここに例として出ている下水熱や再生可能エネルギー等の様々な方法を駆使して利便性を高めていけるよう、ぜひ戦略編の中に入れていただければと思う</li> </ul>	
29	吉岡委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この前の冬の大雪を経験して、一市民として、これだけたくさんの雪が降るのに、行政の方に雪がないような移動ができるようにしてくださいというのは無理があると実感</li> <li>・大雪のときは、市民一人一人が家にいる、休む、そして、病院の勤務の方など、出勤しなければならない方を優先するような、札幌スタイルを作り上げていけると良い</li> </ul>	

No.	委員	意見	対応
30	高野部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動経路のバリアフリーについて、冬季は本当に大変だというお話もあった</li> <li>・冬も含めて、全ての移動を完全に実現することは難しいが、パラリンピックの開催を迎えようとしているという意味では、冬期でも移動を可能にするということはすごく重要</li> <li>・仮に冬季オリンピック・パラリンピックを開催するとすれば、冬季のユニバーサルという考え、実際に大雪が降る中でどういうバリアフリーを実現するのか、そういったシステムを残すというのが一番のレガシーになると思う</li> </ul>	<p>○ご意見を踏まえ、「移動経路・建築物～誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設等の整備～」を柱として再整理し、「四季を通じて円滑に移動できる交通環境」を位置付けました。</p> <p>○その中で、主な施策として、「地下鉄駅への2基目のエレベーター整備を推進」するとともに「地下鉄エレベーターとタクシー・バスの乗継経路に下水熱ヒーティングの導入を検討し、冬季の乗継機能を強化」し、さらに「ノンステップバスやUDタクシーの導入促進に向けた支援の充実」を図っていくことを記載し、可能な限り冬期間でも円滑な移動ができるよう、効果的な事業を構築して行きたいと考えています。</p> <p>○冬期の移動環境の確保は、札幌市にとって、大きな課題であると認識しており、ハード面だけでなく、情報発信などのソフト面も組み合わせて考えていく必要があると考えています。</p> <p>○札幌市は、今年度から、ANAグループと連携し、ユニバーサルデザインに基づく総合的な移動サービス「UniversalMaas」の共同プロジェクトを推進しており、積雪寒冷地である札幌ならではの課題の抽出にも取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>○また、休憩スペースの配置なども含め、事業の構築にあたっては、様々な方の声を、より一層お聞きして検討していく必要があると考えております。</p> <p>○さらに、昨冬の大雪は、市民生活に多大な影響を及ぼしました。大雪時における対応や持続可能な雪対策に向けた検討についても、分野横断的に取り組む施策の「スマート」の中で、検討を進めております。</p>
31	椎野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お示しいただいている施策の方向性自体には全く異論はない</li> <li>・戦略編の議論を進めていく上で、優先順位や重点項目の設定という話になってくると思うが、今の時点でそれがどのぐらい到達できていて、どこが未達成なのかという整理が必要</li> <li>・札幌市として、最初の3年ぐらいでこういうことをやる、半期の5年でここは特に力を入れてやるなど濃淡をつけた施策にすれば市民の目にも見える</li> <li>・札幌は雪のないグリーンシーズンと降雪期のホワイトシーズンの2つに分かれる</li> <li>・これは札幌の特徴であり、魅力でもあるが、バリアフリーの観点からは非常に大きな制約になっているので、寒冷地ならではの季節性みたいなものをまとめていけると良い</li> </ul>	<p>○札幌市は、今年度から、ANAグループと連携し、ユニバーサルデザインに基づく総合的な移動サービス「UniversalMaas」の共同プロジェクトを推進しており、積雪寒冷地である札幌ならではの課題の抽出にも取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>○また、休憩スペースの配置なども含め、事業の構築にあたっては、様々な方の声を、より一層お聞きして検討していく必要があると考えております。</p> <p>○さらに、昨冬の大雪は、市民生活に多大な影響を及ぼしました。大雪時における対応や持続可能な雪対策に向けた検討についても、分野横断的に取り組む施策の「スマート」の中で、検討を進めております。</p>
32	山本（一）委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し記載が必要なのは雪の時期について</li> <li>・夏はいいのだが、冬の間対策についても記載がないと、現実と少しずれていくのかなと思う</li> </ul>	<p>○札幌市は、今年度から、ANAグループと連携し、ユニバーサルデザインに基づく総合的な移動サービス「UniversalMaas」の共同プロジェクトを推進しており、積雪寒冷地である札幌ならではの課題の抽出にも取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>○また、休憩スペースの配置なども含め、事業の構築にあたっては、様々な方の声を、より一層お聞きして検討していく必要があると考えております。</p> <p>○さらに、昨冬の大雪は、市民生活に多大な影響を及ぼしました。大雪時における対応や持続可能な雪対策に向けた検討についても、分野横断的に取り組む施策の「スマート」の中で、検討を進めております。</p>

No.	委員	意見	対応
33	柴田委員	・ウクライナの情勢を見ていて、日本は極端にシェルターが少ないが、北欧では、必ずシェルターをつくるようにというまちづくりをされている	○ご指摘のシェルターの設置等について、直ちに取り組んでいくことは難しいと考えていますが、有事の際の視点は、「まちづくりの基本目標」の「安全・安心分野」で整理し、検討を進めていきたいと考えています。
34	山本（一）委員	・戦争だけではなく、地震などの災害時にはどこに避難したらいいかということもありますし、各地域の地下に歩行空間があって、それぞれバリアフリーで誰でもそこに避難できるような場所を併設して、少し離れた地域にもある程度歩いていけるなど、地下空間の充実も必要なのかなと思う	